

# シンポジウム

## 風力発電が渡り鳥に与える影響を考える

-障壁影響、バードストライク等への対応-



発電効率の良い有力な自然エネルギー源として世界各国で導入が進められる一方、希少な野鳥の衝突事故といった問題をはらむ風力発電。今後、自然エネルギーへの転換と、渡り鳥をはじめとする生物多様性保全をどのように両立させていくか、海外の先進的な取り組みから学びます。

日時:2016年12月11日(日)13:00~17:30 (開場 12:30)

会場:慶應義塾大学三田北館ホール

アクセス・キャンパスマップ <https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

定員:100名

申込み:日本野鳥の会自然保護室 まで、メール・電話で申込み

Eメール:sympo2016@wbsj.org / 電話:03-5436-2633

※シンポジウムタイトル、お名前、ご所属をご記入下さい。

## プログラム

1. はじめに 風力発電が野鳥に与える影響と環境影響評価の課題
2. 基調講演① Aonghais Cook 氏 (BTO)  
風力発電が渡り鳥に与える影響－障壁影響とその対策を考える－
3. 基調講演② Tristram Allinson 氏 (BirdLife International)  
渡り鳥に影響が出やすい場所での風車建設を避けるためのマップ作り
4. パネルディスカッション  
「渡り鳥に影響を与えない風力発電の実現」  
(パネリスト)  
A. Cook 氏、T. Allinson 氏、増田正悟氏 (環境省) 浦 達也 (日本野鳥の会)  
(モデレーター)  
樋口広芳氏 (東京大学名誉教授、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授)

## 講演概要

### 基調講演① Aonghais Cook 氏 (BTO)

風力発電は、野鳥に対して「タービンとの衝突」「生息地の移動」「障壁影響」等の影響を与えるが、中でも「障壁影響」は最も知られていない。障壁影響は鳥類が風車との衝突を避けるための回避行動に起因し、渡りの期間や、営巣地と採餌場所との移動の際に起きやすい。本講演では、洋上・陸上両方の風力発電施設に関する、現在の立証に基づいた障壁影響についてお話したい。これまで使われてきた手法の強みと弱点を考慮し、また、障壁影響が異なる種間でどのように変化するか注視し、特に障壁影響に脆弱であると思われる種やグループに焦点をあてて、その影響を緩和するために考えられる手段について話したい。

### 基調講演② Tristram Allinson 氏 (BirdLife International)

風力発電の野鳥への影響を避ける最善の方法は、潜在的に脆弱なエリアに風力発電施設を建てないことである。そのためには、正確な鳥類学データに基づいた空間的なマッピングの手法が必要であり、バードライフ・インターナショナルでは、こうした手法の開発を担っている。バードライフでは、GEF(Global Environment Facility)、UNDP(United Nations Development Programme 国連開発計画)、MAVAの支援を受けて、中東や北アフリカ、地中海沿岸部をカバーする、地域レベルでは初となる脆弱性マップを開発した。本講演では、飛翔性の鳥類に悪影響を与えるような場所に風力発電施設を建設しないために、これらの手法がどのように使われるかをお話したい。